



Title	アンチエイジング対策に基づくビジネスモデルに関する研究
Author(s)	峯平, 慎哉
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/48675">https://hdl.handle.net/11094/48675</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	みね 平 慎 哉
博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	第 2 2 0 9 0 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 20 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻
学 位 論 文 名	アンチエイジング対策に基づくビジネスモデルに関する研究
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 座古 勝 (副査) 教 授 佐藤 武彦 教 授 小林 敏男 准教授 上西 啓介 准教授 倉敷 哲生

### 論 文 内 容 の 要 旨

我が国の社会保障（医療費・介護費）問題と少子高齢化問題に対し、健康寿命の延長を目指すことは有効な対策と考えられている。しかし、人間ドックなどでの早期発見早期治療やその他の病気予防対策は数多く提案、実施されているものの、健康寿命についてはその対策がなされていないのが現状である。加えて、検査の結果、異常の無いと判定された人には特別な健康提案が行われていないのも現状である。このような仕組みでは病気発見は可能であるが、予防は出来ず、医療費・介護費増加の要因となり、高齢化社会での社会保障費に関わる懸念がある。

かかることから、本論文では、ビジネスモデルの体系化を図ることを目的とし、予防医学・アンチエイジングに基づくアンチエイジングツーリズム型ビジネスモデルを提案、実践し、その有効性を調査した。ビジネスモデル提案には、将来に医療がかかえる問題を解決することを目的に、国民の趣向を捉え、その商品化を行う手順で実施した。年齢構成や健康保険費など将来予測には、政府発行の各種白書を用い、健康に関する関心と要望を反映してアンチエイジングツーリズムを立案、実施した。

論文は5章構成とし、第1章では緒言として、社会保障給付金問題と少子高齢化社会問題の動向を示し、その対策としてのアンチエイジングの役割とその条件を記述した。特に、食材、運動、ストレスがアンチエイジングに関わる重要な要素であることを示した。

第2章では、食材、運動、ストレスがアンチエイジングにどのように関わっているかを調査し、それぞれの役割を明確にした上で、アンチエイジングビジネスモデルを提案した。特に、食材については栄養素のバランスが必要であること、ストレスのホルモン分泌に及ぼす影響が大きいこと、運動では代謝機能が重要であることから、食事とリラクゼーションを考慮し、旅行とヘルスケアを融合させたアンチエイジングツーリズムを提案した。

第3章では、アンチエイジングツーリズム型ビジネスモデルのコンセプトを記述し、付加価値を高める手段として医師の指導に基づく工学測定器を用いた健康チェックを提案した。また、信頼性の高いビジネスモデルとするため、医師の指導に基づくヘルスケア手法として「温泉入浴法」「アロマセラピー法」を提案し、試行するとともに、その効果を検討し、提案手法がアンチエイジングに有効であることが判明した。

第4章では、ビジネスモデルは市場からのみの判断ではなく、健康白書等に基づく関心と要望を反映させることが重要であることから、3章で提案したアンチエイジングツーリズムを実行し、工学測定器によるチェックと受講者へ

のアンケート調査により、そのアンチエイジング効果とビジネス効果を検討した。

第5章では、得られた知見をまとめ、市場志向だけでなく、将来に社会が抱える問題などを分析した上でのモデル化手法は工学分野全般に展開できる可能性があることを示し、結論とした。

## 論文審査の結果の要旨

我が国の社会保障（医療費・介護費）問題と少子高齢化対策として、アンチエイジングによる病気予防を提案し、ビジネスモデルの実践と考察を研究課題としている。従来、医療対策としては、早期発見早期治療を目的とした人間ドックなどでの検診が行われているが、健康な場合には特別な予防提案が行われていないのが現状である。また、近年、病気予防対策は数多くの分野で提案されているが、その取組は個人の自主性に委ねられているのが現状である。このような医療制度の仕組みでは病気発見は出来ても予防は出来ず、医療費・介護費増加の要因となる課題を抱えている。

本論文では上記事由を鑑みて、アンチエイジングによる予防対策の「きっかけ」と「実践」を具現化するために、3つの素材を念頭に置いたアンチエイジング手法の提案と、ビジネスモデルとして実践するための手法の構築を研究目的としている。具体的には、アンチエイジング素材として食事、運動、ストレスの3つの対策に絞り込み、それらを提案、実践するきっかけとして、白書等から国民の動向分析を行い旅行に着目し、旅行とヘルスケアの融合を図った。モデルでは、旅行の若返り効果を評価するため、工学測定器を用いた健康チェックシステムの体系化を行った。このシステムは医師の指導に基づき医師の立会いが無くとも正確なデータが得られること、その場で結果が得られることを考慮し、測定器を主査、選別し、実践した。アンチエイジングのための旅行中の食事は、食材と調理法との関係を提案し、その品質保証を目的に、健康おかやま 21 ヘルシーおもてなし料理の認定を取得した。一方、運動は、一般的に行われているウォーキングの問題点を挙げ、腕ふり有酸素運動を提案し、実証した。また、ストレスケアは、温泉入浴法とアロマセラピー法を提案し、実証し、実践している。

これらヘルスケア法は医師の指導の基に行い、旅行中に医師による健康セミナーを開講することで、実践だけではなく学びの要素を取り入れているところに特徴と新規性がある。

かかるように、本論文は、社会保障問題の解決策の一つとして、アンチエイジング問題を捉え、アンチエイジングツーリズム型ビジネスモデルを提案すると共に、その実現を図り、その効果をまとめたものである。取り上げたヘルスケア法と健康チェックシステムは、予防対策のきっかけと実践の具現化と同時に、温泉やアロマセラピーを有する多くの施設に適用できることから、汎用性の高いビジネスモデルであると考ええる。また、国の将来傾向を把握し、社会が抱えている問題からニーズを取り出し、モデル化を図る手法は、多くのビジネスモデル提案で有効であり、工学分野全般に展開できる可能性を示している。よって本論文は博士論文（工学）として価値あるものと認める。